

農業技術 プリズム

近年、イチゴ果実に対するアザミウマ類の被害が深刻化しています。長崎県内では、主にヒラズハナアザミウマ（以下、ヒラズ）、ネギアザミウマ（以下、ネギ）、チャノキイロアザミウマC系統（以下、チャノキC）の3種が発生しています。特にチャノキCは、近年、長崎県内の一部圃場（ほじょう）でイチゴへの寄生が確認されていましたが、その被害実態は不明でした。

そこで、各アザミウマによるイチゴ果実への加害能力を比較しました。試験は開花直

後の花をメッシュ袋で覆い、同時に各アザミウマ雌成虫を放虫して、その約1カ月後に

イチゴ果実に対するアザミウマ類の加害能力の違い

種ごとの特性踏まえ 防除の基準更新必要

被害程度を調査しました。その結果、加害能力はアザミウマ種の違いにより異なることが分かり、ヒラズとチャノキCは、果皮全体に広がる

傷痕を残して商品価値を著しく低下させたのに対し、ネギは加害が軽微で、寄生数が多い場合に果実被害が顕在化する傾向が見られました。このため、現在の、ヒラズの発生密度を基に設定されている防除の判断基準は、今後、アザミウマ類の種ごとの加害特性を踏まえて設定することが求められます。

（長崎県農林技術開発センター 環境研究部門病害虫研究室 専門研究員 高田裕司）

図 各アザミウマによるイチゴ加害程度別果数

